

<配布資料：2018年12月25日 一般社団法人環境金融研究機構>

連絡先：東京都千代田区内幸町2-2-1、日本プレスセンター8階

電話 03-6206-6639 携帯 090-8728-2311（藤井）

Email <green@rief.jp.org>

第4回（2018年）サステナブルファイナンス大賞の受賞



<サステナブルファイナンス大賞とは>

環境問題を金融的手法で解決する「環境金融」の普及・啓蒙活動を行う一般社団法人環境金融研究機構（RIEF）が、2015年から始めた表彰制度で、今回が4回目です。対象は日本の金融市場で環境金融商品・サービス・取り組みを展開する金融機関、企業等です。

10人の審査員が6項目に基づき採点、全員のスコアを元にした定量評価と、審査員会議での定性評価を合わせた総合判断で、「最も優れた金融機関」を選びました。

2019年1月23日（水）午後3時から、東京・内幸町の日本プレスセンター9階記者会見室で、表彰式を開催します。受賞企業による発表も予定しています（取材自由）。

大賞：日本生命保険 「石炭火力発電事業向け新規投融資の原則禁止を盛り込むなど、投融資にネガティブ・スクリーニングを導入する一方で、ESG投融資には7000億円の数値目標を設定、投資先へのエンゲージメント活動にも力を入れて実践するなど、ESG投融資市場の発展に総合的に貢献した」

優秀賞：三井住友信託銀行 「石炭火力発電向け新規投融資停止のほか、信託機能を活用したグリーントラストを開発するなど、投資家のグリーン投資に応える対応を展開した」

優秀賞：丸井グループ 「事業活動で使用する電力をすべて再エネ電力とする『RE100』に加入するとともに、再エネ電力調達のため小売業界初のグリーンボンドを発行するなど、

一貫性を持った再エネ取り組みを実践した」

優秀賞：第一勧業信用組合 「持続可能な経済・社会・環境の発展への貢献を目指す国際金融組織『グローバル・アライアンス・フォー・バンキング・オン・バリュー（GABV）』に日本の金融機関で初参加。他の金融機関とのネット化で地域創生に貢献した」

グリーンボンド賞：日本郵船 「外航海運業界で初めてグリーンボンドを発行。船舶のグリーン性評価の国際的活動にも加わるなど、ボンドの発行を超えた取り組みを評価」

グリーンボンド賞：日本リートファンド投資法人 「不動産投資信託ファンド（J-REIT）として初のグリーンボンドを発行、他の J-REIT の追随を誘い、2018 年のグリーンボンド発行“ブーム”の軸となった」

グリーンボンド賞：三菱 UFJ フィナンシャル・グループ 「年間を通じて 3 回のグリーンボンドを発行。日本勢によるグリーンボンド発行市場の流動性向上に貢献した」

グリーンボンド賞：三井住友フィナンシャルグループ 「国内金融機関として初の個人向けグリーンボンドを発行。グリーンボンドへの投資家層の多様化に貢献した」

地域金融賞：大分県信用組合 「過疎化、高齢化が進む地域にあって、地域自治体とともに健康寿命を延伸する活動に取り組み、『健康』をキーワードとした資金循環システム創造に取り組んでいる」

< 本年の総括 >

池尾和人審査委員長（立正大学経済学部教授）

「今年は、環境金融にかかわる取り組みの一層の拡大が実感できた。とりわけグリーンボンドの発行が相次ぎ、それぞれの業界で先陣を切った企業の中から特に顕彰すべきと判断された先に、グリーンボンド賞を本年の特別賞として授与することにした。また『脱石炭』の動きも強まってきた」

審査員は池尾和人委員長のほか、魚住隆太・魚住サステナビリティ研究所代表、大庫直樹ルートエフ代表取締役社長、佐藤泉弁護士、末吉竹二郎国連環境計画特別顧問、鳥谷礼子預金保険機構運営委員会委員、中北徹東洋大学教授、藤井良広環境金融研究機構代表理事、堀江隆一 CSR デザイン環境投資顧問代表取締役社長、山本利明大阪電気通信大学教授で構成した。

（環境金融研究機構は非営利団体です）